

慢性腎不全の治療 大黄、温脾湯が効果

Q 三十一歳、女性。学校検診でいつも血尿とたんぱく尿を指摘されてきました。五年前腎（じん）生検で進行性腎炎と診断されました。既に腎機能が半分以下に低下しており、数年のうちには透析が必要になるかもしれないと言われました。腎不全の進行を抑え、透析しないで済む漢方薬はありますか。

A 慢性腎不全については、いくつかの生薬・漢方薬に腎機能の改善や悪化防止に役立つものがある。その代表的生薬が大黄（だいおう）である。大黄は一般に植物性緩下剤と考えられてきたが、近年実に多彩な薬理作用があることがわかってきた。その一つがタンニン成分の中の腎機能改善作用である。

またこの大黄を含む温脾湯（うんぴとう）という漢方薬が腎機能の改善、悪化の速度を遅らせることができるとして期待されている。温脾湯は大黄・薬用人参・附子（ぶし）・甘草（かんぞう）・乾姜（かんきょう）の五つの生薬の組み合わせである。

大黄を含む漢方薬を服用できない人には五苓散（ごれいさん）、柴苓湯（さいれいとう）などが症状、兆候に応じて使われる。

このように漢方薬を使い分けることによつて透析導入を遅らせることは可能であるが、血圧や血清カリウム値など常に西洋医学的管理の下に行うべきである。血中に含まれるクレアチニンの数値で1dl当たり七から八mg程度までが漢方治療の限度と考えられる。